

★特別開館のお知らせ★

7・8月は土日のみ30分早く開館します

通常 10時開館 → 9時30分開館

【対象日】

7/6(土)、7(日)、13(土)、14(日)
20(土)、21(日)、27(土)、28(日)

8/3(土)、4(日)、10(土)、11(日)、17(土)
18(日)、24(土)、25(日)、31(土)

※7/15(月祝)、8/12(月祝)は除く

筑豊文庫資料室講座

『子どもたちと戦争』

北九州市で平和資料室を立ち上げた小松さんに、伝えることの大切さ、平和と命についてお話していただきます。

【日時】 8/3(土) 10:30~12:00

【場所】 直方市立図書館 筑豊文庫資料室

【講師】 北九州平和資料室 TICO PLACE 小松 芳子さん

【定員】 20名(小学5年生以上)

【受付期間】 7/9(火)~7/30(火)※先着順

【申込方法】 図書館カウンターまたは電話

のおがた
元気ポイント事業

展示のご案内

7/30(火)まで

一般書

『「名勝負」が見たい!』

児童書

『あそびたい子あつまれ!』



直方市山部 301-11
☎0949-25-2240

【開館時間】 ※7・8月のみ

火~金 10:00~19:00 / 土 9:30~19:00

日 9:30~17:00 / 祝日 10:00~17:00



図書館 HP



カレンダー&イベントのご案内

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

太字は17時閉館、■は休館

○はイベントがある日

*筑豊文庫資料室 ◆コミュニティのおがた会議室 3 ◎図書館前ロビー
★コミュニティのおがた小ホール その他:おはなしコーナー

9(火)11:00~ 乳幼児向けおはなし会(麦のこ)

13(土)14:00~ 認知症カフェ図書館◆【要事前申込】

20(土)11:00~ おはなし会(赤ずきん)

14:00~ 土曜シアター「ベイビー・ブローカー」(130分)★

21(日)10:00~ おもちゃ病院(受付 13時まで)◎

14:00~ おはなし会(れろの会)

27(土)14:00~ おはなし会(ママリんご)

28(日)11:00~ おはなし会(図書館職員)

29(月)10:00~ 夏のわくわく♪としょかん教室【要事前申込】



3(土)14:00~ おはなし会(やまびこ会)

10:30~ 筑豊文庫資料室講座*【要事前申込】

16(金)10:15~ 大人の朗読講座*【要事前申込】

18(日)10:00~ おもちゃ病院(受付 13時まで)◎

24(土)11:00~ おはなし会(まほうの箱)

25(日)11:00~ おはなし会(図書館職員)



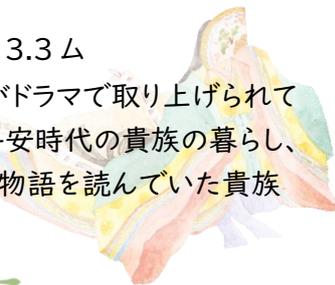


7月号のテーマ 「心躍る」

毎月、司書がひとつのテーマにそって本を紹介します。
※()は司書のペンネームです。

『源氏物語解剖図鑑 平安人の暮らしとキモチがマルわかり』 佐藤 晃子 // 文 913.3 ム

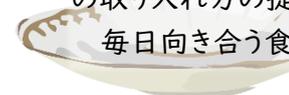
なかなか読破するのは大変そうな世界最古の長編小説、源氏物語。でも、書かれた背景がドラマで取り上げられている今ならば、手に取れるかも。本書では、源氏物語を一帖ずつ徹底的に解剖しています。平安時代の貴族の暮らし、風習なども紹介されているので、このガイドブックと共に読み進めれば、心躍らせながら源氏物語を読んでいた貴族の気持ちに共感しながら読めるかもしれませんね。(スタ子)



『うつわ』 暮らしの図鑑編集部 // 編 596.9 シ

異なる素材や色んな形に挑戦して組み合わせてみたり、コーヒーをマグカップ以外のもの(本書では蕎麦猪口)で飲んでみたり、日々の食事を楽しく豊かにしてくれるうつわのヒントが詰まった1冊。季節を味わう器の質感や、色味の取り入れ方の提案など、今日から使いたいアイデアもたくさん。

毎日向き合う食卓だからこそ、心躍る、ときめくうつわと共に過ごせると幸せですね。(アキ)



『フランスの小さくて温かな暮らし365日』 荻野 雅代・桜井 道子 // 著 293.5 オ

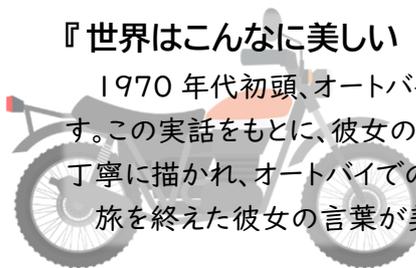
誰しも一度は「どこか別の国で暮らすなら…」と想像したことがあるのでは。

本書は実際にフランスで暮らしている方たちの視点で綴られる日めくりエッセイです。台湾やハワイなど他の国のシリーズもあり、旅行本とは違う読み応えがオススメです。異国暮らしを実現させる行動力も素敵ですが、読んで想像して、ワクワクするのも楽しいですよ。(kn²)



『世界はこんなに美しい アンヌとバイクの20,000キロ』 エイミー・ノヴェスキー // 文 K289 ト

1970年代初頭、オートバイに乗り、初めて世界一周をした女性がいました。作家のアンヌ=フランス・ドートヴィルです。この実話をもとに、彼女の旅が美しい絵とともにつづられています。旅の準備、訪れた国々や出会った人々などが、丁寧に描かれ、オートバイでの世界一周という過酷とも思える旅を、彼女が心の底から楽しんでいたことがわかります。旅を終えた彼女の言葉が美しく、胸がふるえました。(majakka)



『コンチキ号漂流記』 トール・ハイエルダール // 著 KB299 ハ

ポリネシア人のルーツは南米の先住民ではないか?そのような仮説を立てたノルウェーの学者ハイエルダールが、1947年、約3カ月をかけて南米ペルーから南太平洋の島まで、いかだコンチキ号で仲間たちと航海した記録です。

ヤリイカやサメ、嵐など次々に襲ってくる困難に、仲間たちと立ち向かっていく様子がいきいきとユーモラスに描かれています。心躍る冒険の記録、夏の読書にいかがでしょうか。(tm)



『渦 妹背山婦女庭訓魂結び』 大島 真寿美 // 著 F オ

人形浄瑠璃。生身の人間よりも人間らしい人形と太夫の語り。この世のようでこの世ではない、不思議な世界が広がり、客は虚実の渦に巻き込まれていく。

浄瑠璃狂いの父に連れられ文楽にのめりこんだ子どもは、やがて浄瑠璃作家近松半二となる。客が心躍らせる芝居を書く喜びと苦悩を描く。直木賞受賞。(Bee)

